



CLOVER

発行 地域医療を育てる会
代表 藤本晴枝
<http://www.geocities.jp/haruefjmt/>
第5号 平成17年10月5日発行
東金市東金1142「東金の家」内
TEL: 090-7634-7175

障害を持つ子どもが 安心してかかれるお医者さんはあるか？

ある母親の投書から・

私の子どもは、重度の知的障害と肢体不自由を合わせ持ち、その上、一番の難点である難治てんかんをもっています。生後数ヶ月で発症し、日に数回てんかん発作がある状態が14歳の今でも続いています。そのため、発症してからずっとこども病院に通院しています。ずっと通っているせいもあるのですが、こども病院は、患者が子どもだけである事、いろんな病気を抱えている子や障害の子も多く来ているので、子を連れて行くのも親として気が楽なところがありません。お互い様というよくな雰囲気もあるし、スタッフの方たちも障害のある子の対応も慣れているので、ちょっと様子を伝えれば、わかってもらえることが多く、安心

できます。

だからといって単なる風邪くらいでは、こども病院にいけないので、近くの医院で診てもらおうという事になるので、が、以前、子どもが暮れに風邪をひき、夕方近くになり、お医者さんに診てもらった方がいいかなというような状態になった事があります。診療時間も終わりに近づいたころだったので、当番医に電話を入れてみました。その時、てんかんを持っている事も一応伝えておいた方がいいかと思いい、その旨を伝え、でも今は風邪が問題でそれを診てもらいたいと強調したのですが、結局そういう病気があるならN病院に行ってくださいと言われました。その当番医までなら5分かならないくらいなのに、もう暗くなった暮れのを、上の子も連れて30分

車を走らせN病院に行きました。

一応診てはいただいたのですが、やはり、先生方には、てんかんの方が気になるらしく、明日、こども病院に行つて診てもらった方がいいと思いきすという事でした。結局、翌日、こども病院に行つたのですが、この病気を持っている風邪でも近くの病院で診てもらえないのかなと辛い気持ちになりました。先生方の何かあったら・・・と不安に思う気持ちもわかりますが、誰でもかかるような一般的な病気の対応については、どの医院でも診てもらえるような体制にしてほしいとその時感じました。その後、町内の小児科の評判を聞き、受診したところ、まったく問題なく子の状態にも配慮していただき、安心して

診ていただくことができました。

今は結構、医院等もバリアフリー化が進んで、身障者でも入りやすくなったり、対応も理解ある対応をしてくれるところが増えてきていると思います。ただ、障害の状況により、環境や人に対する不安の強い自閉症などの障害を持った方達がいざという時、病院には入れなかったり、治療をこぼす場合があります。緊急の時、治療が受けられないと、大事に至らないとも限りません。その時のために、なんでもない時に健康診断の意味もかねて時々医院・病院を尋ね、医師やスタッフの方と話しをしたり、診察室を見たりして慣れておくことが大事だと思えます。その訓練の場を、親や係わる人が作っておくことが必要だと思います。また、それを理解し、協力してくださる医師やスタッフの方達が多くいてほしいと思います。

東金市内で開業している小児科医、岸本医師にこの投書を見ていただき、インタビューしました。
 (なお、投書の文中の医院は、岸本医院とは別の医院です。)

Q この方はお子さんの診察をしてくださる医師が少ないことでご苦労されていますが、

A この投書にあるような障害と症状は、小児科医にとっては慣れているので難しい病気ではありません。小児科医であれば診察できます。ただし、小児科も標榜している内科医の場合には診察する機会が少ないので診られないということともあるでしょう。

Q 内科と小児科は違うということですか？

A そうです。小児科医の場合は勤務医時代からいわゆる障害をもった子どもを診察・治療している

ます。ところが内科医の場合はそうした経験を診察が難しいわけです。私は小児科医ですが、大人の方も診察しています。しかし、仮に「末期の癌患者が自宅で過ごしたいのだが、先生のところまで診てくださいますか」といわれたら、私にはできませんから内科専門の方へ行ってください、ということになります。それと同じことです。

Q 結局は、夜間帯に診察してくれる小児科医の数が少ないということになりますね。

A 小児科医の数を増やす以外に解決策は？

A 内科の小児科研修を強化して、障害をもった方の診察・治療ができるようにする方法が考えられます。しかし、現在仕事をしている医師に、そ

れだけの時間的な余裕があるかという点、難しいのが現実でしょう。また、子どもから大人へ移行していく障害者の方については、小児科医も診察をしていこうという方向になっていきます。

Q では、患者の側で何かできることは？

A 日ごろから健診などで障害者も気軽に診察してくれる近所の内科医とコンタクトを取っておくことも必要です。かかりつけの小児科医をもっていれば、なお良いでしょう。

Q 駆け込んだ病院で「明日子ども病院に行くように」といわれると、患者

としては必ず行かなくてはならないと思ってしまうのですが、ここ(山武の地域)から子ども病院に行くのは大変です。本当に子ども病院でな

くては対応できないのか、それとも小児科の診療所に対応できるのか、病院の医師に聞いてみるといいでしょう。診察や治療は、患者からの情報があつて初めて成り立つわけですから、わからないことは何でも医師に聞いてください。

福祉と医療の学習会のお知らせ
 病気・怪我・加齢・障碍などがあっても、誰もが安心して暮らせる。
 そんな地域にするために、何をしたらいいか、一緒に考えてみませんか？
 日時 平成17年10月22日(土)午前10時から正午まで
 場所 東金市ふれあいセンター(田間421)栄養指導室2
 申し込み・問い合わせ 090-7634-7175(藤本)

このクローバーを題材に話し合います。

